

HOME > 組織一覧 > 委員会一覧 > アーバントリップ実行委員会

- Contents**
- [イベントセミナー情報](#)
 - [技術情報](#)
 - [CPD\(継続職能研修\)](#)
 - [建築家資格制度](#)
 - [組織一覧](#)
 - [頒布図書](#)
 - [頒布資料](#)
 - [Bulletin on Line](#)
 - [広報から](#)
 - [アーカイブ](#)
 - [JIA関連サイト](#)

ア | ー | バ | ン | ト | リ | ッ | プ | 実 | 行 | 委 | 員 | 会

JIA第44回アーバントリップ見学会のご報告

実施日: 2004年3月4日
テーマ: 居心地の創り方
見学先: カカシ米穀
 ちひろ美術館 (内部は撮影不許可)
 IRONY SPACE

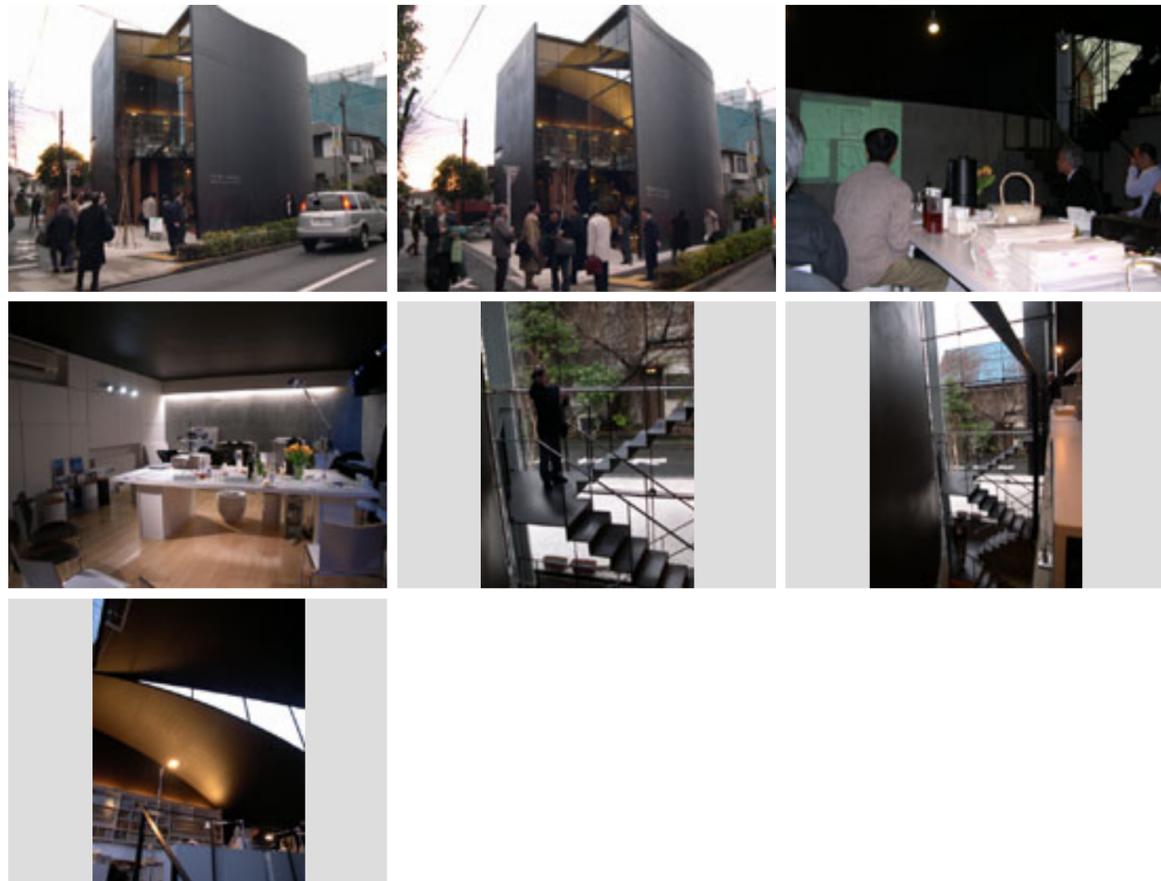
カカシ米穀



ちひろ美術館 (内部は撮影不許可)



IRONY SPACE



切り口の異なる3つの建築 山本 明広（日建設計）(Bulletin 2004年6月号より)

どのように居心地の良い空間が作られたか、3つの建築がまったく違う切り口で設計されていることが大変興味深かった。

カシ米穀深谷工場オフィス棟は2001年に日経アーキテクチャーに紹介されて以来、是非、見学したいと思っていた。竣工して3年、環境測定データが揃ったところで見学できたのは幸いであった。つつい完璧を目指しがちな設備設計者の普段の業務からすると中途半端とも思えるかもしれないが、設計者の白江氏はこれまでに動物舎や温室の設計に携わった経験からローコストな省エネ手法を駆使され、計算上は22.2%の省エネ効果であるのに対し、実質的には54%の省エネ効果をあげているとのこと。調湿タワーの発想や大胆にも南向きアトリウムを設けた決断と完成した空間が明るく気持ちが良いことに拍手を贈りたい。

ちひろ美術館・東京はちょうど1年前に個人的に訪れ、ゆっくりと過ごさせて貰った。いわさきちひろの作品に囲まれてやさしく至福の時を過ごす来館者、カフェや中庭は都市の喧騒を忘れさせてくれる。我々を迎えてくれた松本副館長をはじめ関係者の思いがひしひしと伝わってくる建築となっていた。「ところで外壁の色は西隣のマンションを考慮して街並みに溶け込ませようとしたのか」と愚問をしてみました。「それは内藤氏が設計打合せ中に一時、外壁を木板張りとし、弁柄色にしようとなったことに由来している」とのこと。弁柄色は酸化第二鉄を主成分とする防錆効果のある物質の色であるが、不思議に懐かしい色である。

IRONY SPACEはこれまで何度か前を通ることがあり、黒い鉄の壁、錆びた屋根が異様なまでの存在感を醸し出していた。話は突然変わって恐縮だが、板茂氏の壁のない家が純粋なガラス建築でトランスパレンティストが「やられたな～」と悔しい思いをしたのと同じくらいの衝撃が構造設計者にはあるのではないかと。壁も屋根も構造体そのものだから100mmは極限の薄さと言えよう。構造家：梅沢良三氏のコスモロジーがそこにあった。鉄のダンボールと同じ構造だからやはりヒートブリッジがあり、夏も冬も暑いそうだが、ガラス張りの建築に比べればウレタンの断熱材も入っているし、空調すれば問題なく過ごすことが出来る。梅沢氏はすでに外側と内側を絶縁した改良型に挑戦されており次作が楽しみである。「デザインは梅沢さんがほとんどしたんだよな」と言いながらアーキテクトファイブの川村氏をご案内に駆けつけてくれた。北側斜線で切り取られた屋根のハイサイドライトが空間に息吹を与えている。ミニマムなディテールをはじめ完成度の高い建築と思った。